

産官学の フューチャープラン

▼ 59

熊本県

第27回

本の疲弊を救う道は、産業の振興と産業界の育成にある」である。崇城大学の法人名は「君が淵学園」というが、この君が淵とは「徳・智」の優れた人々、すなわち

率は99・2%に達した。ナノサイエンス学科、建築学科、薬学科など7学科では100%となっている。また、就職内定者の満足度は全国平均で約8割といわれているが、

崇城大学

パイロットを目指す工学科を保有

英語教育充実、起業家育成などが特徴

崇城大学（熊本市西区池田4-22-1、☎096-326-3111）の前身は、1946（昭和24）年に設立された電気・電波学校である。67年に熊本工業大学と名前を変え、工学部電子工学科、機械工学科、工業化学科を設置した。2000年に熊本工業大学から崇城大学に改称し、この時、文系の芸術学部も設置されたのだ。

中山峰男学長



「君子」が自ら相集まって「淵」をなすという意を表す。その君子達が学び競う学科棟は「城」、城集まりて「大業を崇（おこ）す」ところ、これすなわち「崇城大学」の由来であるという。

「崇城大の今年の就職率」

崇城大の今年の調査では94・4%と非常に高い。抜群の支援体制を敷いていることが、高い実績を生み出しているのだ。

こう語るのは、崇城大学にあって陣頭指揮を執る中山峰男学長である。中山氏は71年に熊本大学工学部の生産機械科を卒業し、積水化学工業に入社した。その後9年間の

同社勤務を経て学校法人君が淵学園に入職、法人局長などを経て03年に学長および理事長に就任する。

「積水化学では押出成形の開発などを手がけていたが、この経験は実に貴重なものであった。企業マインドというものがよくわかった。労働組合にも所属し、執行委員をやらせていただいた。こ

行する。

そしてまた、今や崇城大学のセールスポイントになっている工学部宇宙航空システム工学科を新設する。何と熊本空港に隣接した空港キャンパスを開設するに至るのだ。

単発機8機、双発機2機を所有し、エアラインのパイロットを目指す。国内のパイロットは20年後に大量に不足するといわ

る。大学が生き残るためには、社会から求められる人材をどう育てることができにかかっている。私は、期待される人物像に必須の条件は、①IT技術、②英語能力、③コミュニケーション能力に尽きるところだ（中山学長）。

こうした方向性から学生全員に1人1台のパソコンを持たせることを決

「14年に開講したベンチャー起業論は、かなり入した。

九州はシリコンアイランドと呼ばれ、多くの半導体企業が集積している。中山学長は米国のスタンフォード大学が知的資産を活用し、企業と連携しながら学生の起業支援を行い、シリコンバレーが生まれたことを高く評価している。シリコンアイランドと呼ばれる九州において熊本はブッチギリトップの生産県であり、シリコンバレーの起業家たちを目指す学生たちが多く出てきて不思議はないというのだ。

「他国の真似をしていれば経済成長ができた時代は、日本がGDP世界第2位になった時点で終わった。自ら何かを見出さなければ発展はない。爛々と目を輝かし、中山学長は熱く語る。

その一方で、熊本県下に若者が残らないという現実があり、真剣に地域創生と企業誘致を進めなければならぬ、と小さくつぶやかれたのだ。

（特別編集委員 泉谷渉）